

# ななかまど

令和4年9月1日(木)  
第50号  
一般社団法人  
猿 払  
ななかまどの会  
会 報

# 青春って凄い密なんです!

## 「全国の高校生に拍手してもらえたらなと思います」

### 夏の甲子園大会優勝校、仙台育英高須江監督の熱いメッセージ

第104回全国高校野球選手権大会は、初めて「白川の関」を越え宮城県の仙台育英高校が優勝しました。試合後の須江航監督の優勝インタビューが話題になっています。

「今年の3年生は入学式どころか、中学の卒業式もおそらくちゃんとできてなくて。高校生活は、僕たち大人が過ごしてきた高校生活とは違うんです。」「青春は凄い密」だけにコロナ禍で何度も活動にストップがかかった中でも、あきらめないで「全国すべての高校生の努力のたまもの、ただただ最後、僕たちここに立っただけなので、ぜひ全国の高校生に拍手してもらえたらと思います。」とインタビューを締めくくりました。会場からは大きな拍手が沸き上がりました。

もともと人間は「社会的な動物」です。人間は人と人とのふれあいの中で社会人として成長していきます。

スイスの生物学者、アドルフ・ポルトマンが「人間は社会的な動物」と説いています。ほ乳類は生後まもなく立って歩き出します。が、人間は立つまでにおよそ一年かかります。ポルトマンはこの一年を「社会的未熟児だ」と規定します。

しかし、この一年間で乳児は周りから様々な働きかけを受け、また乳児自身も様々なサインを出しながら「発達」していきます。成長発達の過程で「人とのふれあい・関わり合い」はとても大切です。三歳の節、九歳の節、思春期等その時々で祖父母、親や兄弟、友達、恋人様々に関わりの中で社会性を身に付けていきます。

最近ではこの人との関わりが希薄になったといわれています。核家族化や少子化、共働き、都市化等々原

因はいろいろありそうです。がさらにコロナの規制が拍車をかけています。新型コロナが出現して二年半。密を避けた結果の影響がはじめてきた?

コロナ感染し自宅療養経験者が明かした一番の不安は「孤独」だったそうです。コロナの感染経路が少しずつわかってきました。「密」がだめではなく大きくは「飲食を伴う飛沫の拡散」のようです。手指の消毒と「飛沫」を出さないように注意すれば社会活動は広げられそうです。今こそ様々な工夫をして人との関わりを広げていきましょう。



(疫病退散アマヒエ)

# いよいよ始まった「鮭釣り」

浜鬼志別から知来別に至る海岸線に今年も秋味釣りの竿が並び始めました。鮭定置網漁は型入れも終わり、残すは解禁を待っていよいよ網入れです。

今年の秋味はどのようなのでしょうか。秋味は海水温が高いとどうしても岸によらないように、代わりに「ブリ」が入るようです。それでも釣り客はテントや車で寝泊まりし、一人で何本もの竿を立て、シーズン200本以上を釣り上げるそうです。



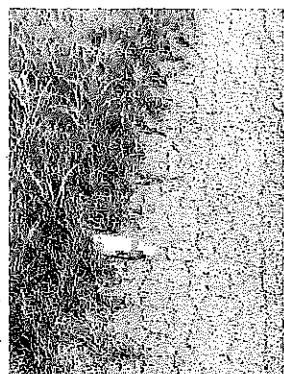
そこで気になるのが「マナー」です。

すべての釣り客がそうだとはいませんが、場所取りをしたり、無断駐車をしたり、漁の邪魔になるような車の止め方をしたりいろいろあります。

一つはトイレ。釣り客はどこで用を足しているのでしょうか。砂を掘って用を足した後埋めているのでしょうか？コンピニヤシエルタのトイレでしょうか？

以前食堂を経営されていた関係者から「外に設置してあるトイレの使われ方がひどい」という話を聞きまして。また、知来別の自治会関係者からは「村指定のゴミ袋ではなくレシ袋に、分別もしないでポンポンゴミステーションに放り込んでいく」というお話も聞きました。

今は改善されているのかわかりませんが、「立つ鳥跡を濁さず」。マナーを守って欲しいですね。



マナーと言えばもう一つ。国道といわず道道と道すが、朝に多いのですが、道端にペイトボトルやレジ袋に入れたゴミが捨てられていきます。マナー以前に捨てた人の人格が疑われます。道路が疑われ、見つけたら回収して、本当は身勝手な行為です。もし村民の中に犯人がいるとしたら育て方を間違えたのかもかもしれませんね。

半年が経ちました。今も障がい者が増え続けています

## 戦争反対

ななかまどの会は障がい者の社会参加を応援している公益法人です